

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

- 【認め合い 高め合い 成しとげる】
- 自らの課題を見つけ、粘り強く問題解決を図ろうとする学びを育みます。【知】
- 礼儀や正義を重んじ、互いに認め合い思いやる心と豊かな感性を育みます。【徳】
- 規則正しい生活と食を大切に、自ら健康な体をつくる力を育みます。【体】
- 社会の一員としての自覚をもち、自らができることを考え実践していく力を育みます。【公】
- 互いの個性を尊重し、互いに高めようとする意識をもち、様々な人とコミュニケーションできる力を育みます。【開】

教育課程全体で育成を目指す資質・能力

- 自分づくり
「自分を理解・受容し生きていく力」
- 仲間づくり
「他者を信頼し、共に生きていく力」

具体化した資質・能力

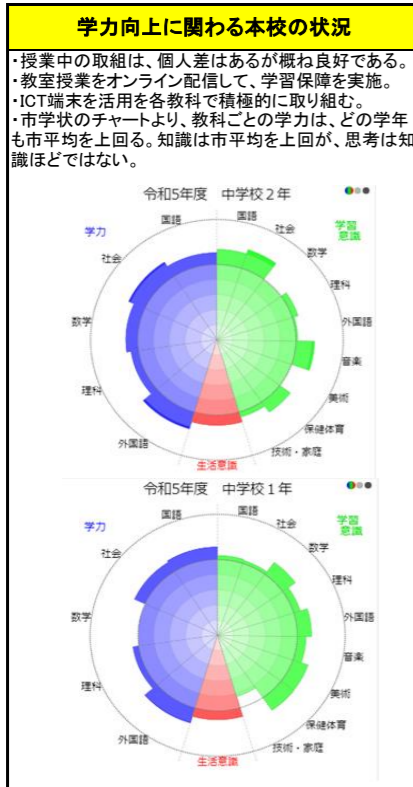
コミュニケーションが取れる……コミュニケーション力、傾聴力
自分から表現できる……表現力、伝達力
自分から周りにかかわれる……人間関係能力、判断力、決断力
お互いを高め合える……自己有用感、自己肯定感

中期取組目標

- 戸塚中学校の生徒・卒業生としての誇りがもてるように、諸活動を充実させて、生徒の自己有用感・自尊心の醸成を図る。
- 教科横断的に育てたい資質・能力を明確にし、一人一人を大切に指導を充実させて、分かりやすい授業の実践を目指す。
- すべての教科領域で、言語・表現活動の充実を努め、さまざまな場面での表現力の育成を推進する。
- あいさつ運動を推進し、学校内にとどまらず地域でもあいさつができるように、コミュニケーション能力の育成を図る。
- 保護者や地域との一層の連携・協働を図り、学校・家庭・地域全体で将来を担う人材を育成する。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力 授業改善	①身に付けた知識や技能を使って思考力・判断力・表現力等を働かせながら、多面的・多角的な見方や考え方で問題を解決する力を育てる。 ②「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業やICT教材を活用した授業実践を通して指導と評価の一体化を図り、的確に社会の動向を捉えるために、情報の中から必要なものを取捨選択する力や、学ぶことの意義や楽しさを感じながら意欲的に学び続ける力を育てる。 ③各教科で得られた知識や技能を関連付けることで、新しい学びを発見し、身につけ、社会の様々なできごとに対応できる力を育てる。 ④全国および横浜市学力・学習状況調査の結果を有効活用して、資質・能力の育成の充実を図る。
担当	研究部・学力向上

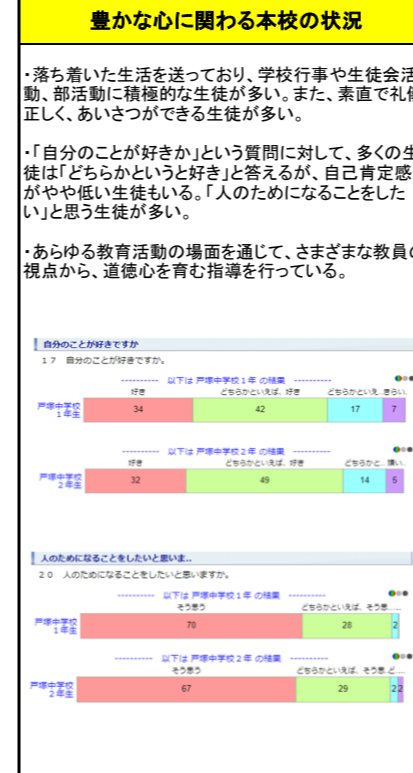


今年度の目標
◎「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させて「主体的・対話的で深い学び」を実践し、生徒の思考力・判断力・表現力、そして学習意欲や創造性の向上を図る。 ◎ICTを効果的に活用しつつ、学びの主導権を適切に委ねることにより、生徒が自発的に他者と関わりながら学びを深めていく学習活動を展開する。

目標を実現するための具体的行動プラン
<p>上半期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々学習に向かう姿勢を大切にしている雰囲気醸成に努める。 ・知識・技能の定着を図ることは継続して取り組む。また、定着した知識を活用しながら、課題などを思考・判断し、それらを表現できるような授業実践を行い、思考力・判断力・表現力の向上につながる教科指導に力を入れる。 ・小集団での活動など、生徒同士が活動する時間を設定し、生徒間での学びあいなどを通して、「主体的・対話的で深い学び」を実践する。 ・Chromebookを活用して、探求的な学習とともに、自ら考えたことを他者へ伝えていく場面も大切にしていく。 ・総合的な学習では、SDGs学習、職場体験学習、職業講話、福祉体験学習を軸に、探求、体験、発表などを、ICTを活用したりしながら自分の言葉で他者に説明できる力を養う。また、校外行事や学校行事等での振り返りを行い、行事で学んだこと・経験したことなどをまとめて表現する力を養う。
<p>下半期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能の定着を図ることを継続する。また、定着した知識を活用しながら、課題などを思考・判断し、それらを表現できるような授業実践を行い、思考力・判断力・表現力の向上につながる教科指導に力を入れる。 ・小集団での活動など、生徒同士が活動する時間を設定し、生徒間での学びあいなどを通して、「主体的・対話的で深い学び」を実践する。 ・Chromebookを活用して、探求的な学習とともに、自ら考えたことを他者へ伝えていく場面も大切にしていく。 ・総合的な学習では、SDGs学習、職場体験学習、職業講話、福祉体験学習を軸に、探求、体験、発表などを、ICTを活用したりしながら自分の言葉で他者に説明できる力を養う。また、校外行事や学校行事等での振り返りを行い、行事で学んだこと・経験したことなどをまとめて表現する力を養う。 <p>※令和6年度の横浜市学力・学習状況調査の結果を受けて再考する。</p>

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育 道徳指導	①道徳教育の充実を教科横断的に図り、生徒一人ひとりを大切に、誰もが安心して心豊かに過ごせる学校づくりに努める。道徳科の授業では「考えて議論する道徳」を行い、自己の考えを深められる授業を展開する。 ②いじめは絶対に許さないを合言葉に、自己と人との関わりで捉え、望ましい人間関係の構築を図る。 ③自主・自律・自立の精神を重視して、集団としての規範意識を高めながら、自主的に考え判断して誠実に実行しようとする力を育てる。 ④「相互理解・寛容」「思いやり・感謝」「生命の尊さ」を重点に、全教育活動を通じて自尊感情・自己有用感のさらなる醸成を図る。
担当	道徳指導部・人権推進委



今年度の目標
◎「相互理解・寛容」「思いやり・感謝」「生命の尊さ」を重点に、自尊感情・自己有用感を高める。 ◎生命の大切さ・重みを伝え、いじめを許さない雰囲気の醸成に努める。 ◎教育活動全体を通して、安心・安全で心豊かに過ごせる学校づくりに努める。
目標を実現するための具体的行動プラン
<p>上半期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育活動全体を通じて道徳教育を行う。 ・次の道徳教育重点目標を達成する。 A: 自己を高めようとする意識を持ち、人生を切り開いていこうとする態度を養う B: 礼儀を重んじ、互いの個性を尊重して、認め合い思いやる心を育てる C: 社会の一員としての自覚を持ち、協力試合ながらよりよい集団や社会を築こうとする態度を育てる D: 生命の尊さを知り、自他の生命を尊重する心を育てる ・教育相談を充実させ、だれもが安心して生活できる学校生活を目指す。 ・様々な学校行事の中で、互いを認め合い、思いやる心を高めようとする意識を育てる。 ・「人権の木」の植林を行い、全生徒・職員がいじめの無い学校を目指す。 ・道徳別業をもとに、各教科で横断的に道徳教育を行う。 ・職員の道徳に関する研修会を行い、さらなる道徳教育の発展を目指す。 ・「人権作文」に全学年で取り組み、人権意識の醸成を図る。 ・いじめ防止基本方針に沿って、教育相談、記名式アンケートを実施して、いじめを許さない雰囲気の醸成を図る。
<p>下半期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育活動全体を通じて道徳教育を行う。 ・次の道徳教育重点目標を達成する。 A: 自己を高めようとする意識を持ち、人生を切り開いていこうとする態度を養う B: 礼儀を重んじ、互いの個性を尊重して、認め合い思いやる心を育てる C: 社会の一員としての自覚を持ち、協力試合ながらよりよい集団や社会を築こうとする態度を育てる D: 生命の尊さを知り、自他の生命を尊重する心を育てる ・教育相談を充実させ、だれもが安心して生活できる学校生活を目指す。 ・様々な学校行事の中で、互いを認め合い、思いやる心を高めようとする意識を育てる。 ・道徳別業をもとに、各教科で横断的に道徳教育を行う。 ・職員の道徳に関する研修会を行い、さらなる道徳教育の発展を目指す。 ・いじめ防止基本方針に沿って、いじめ解決一斉キャンペーンや教育相談、アンケートを実施して、いじめを早期発見・対応を図る。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①健康診断や新体力テストを通して、自身の体の状態や体力を把握する機会を大切にして、健やかな体づくりを自ら考える指導の充実を図る。 ②体育的行事や屋体の外遊び、部活動等を通して、運動・スポーツに親しむ態度を養う。また、各教科の横断的指導や学校保健委員会、保健行事等を通して、バランスのよい食生活に親しむ態度を養うよう努める。 ③校内環境美化を推進し、衛生的で健康的かつ安全な学校生活が送れるよう、特にごみの分別の徹底を図る。 ④小学校と連携した引き取り訓練、避難訓練や安全点検を計画的に実施し、災害時に適切な判断と行動がとれる態度を養うよう努める。
担当	保健安全指導部・学力向上



今年度の目標
◎生徒の運動に親しむ機会を確保し、指導教員の指導力の向上を図る。 ◎学校と家庭・地域が一体となって、生活習慣や運動習慣の改善を図る。 ◎自己の健康や運動とのかわり意識する取組を実施する。 ◎生徒が身に付けた資質・能力を発表する場を設ける。
目標を実現するための具体的行動プラン
<p>上半期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストを実施し、有効に活用して、生徒が自らの体力を把握する機会を大切にする。 ・屋体等を利用して、運動に親しむ機会を充実させる。 ・体育的行事を運動に親しむ一助とする場面とし、学校生活で身に付けた資質・能力を発揮する機会とする。 ・学校保健委員会を開催し、広く保護者の参加を呼びかけ、生徒の健康面での課題を発見・把握させ自己の健康への意識を高める。 ・保健授業で、1年「心身の発達と心の健康」2年「傷害の防止」3年「健康と環境」全学年で「健康な生活と病気の予防」を学習し、健康についても理解を深める。 ・技術・家庭科では「食生活と自立」「家族・家庭と子どもの成長」との関連を図る。 ・理科では「生物の細胞と生殖」「動物のくらしとなかま」「自然と人間」「科学技術と人間」との関連を図る。 ・運動系部活動の推進
<p>下半期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による「いのちの授業」を実施して、自他の生命の大切さを学ぶ機会を設ける。 ・屋体等を利用して、運動に親しむ機会を充実させる。 ・体育的行事を運動に親しむ一助とする場面とし、学校生活で身に付けた資質・能力を発揮する機会とする。 ・学校保健委員会を開催し、広く保護者の参加を呼びかけ、生徒の健康面での課題を発見・把握させ自己の健康への意識を高める。 ・保健授業で、1年「心身の発達と心の健康」2年「傷害の防止」3年「健康と環境」全学年で「健康な生活と病気の予防」を学習し、健康についても理解を深める。 ・技術・家庭科では「食生活と自立」「家族・家庭と子どもの成長」との関連を図る。 ・理科では「生物の細胞と生殖」「動物のくらしとなかま」「自然と人間」「科学技術と人間」との関連を図る。 ・運動系部活動の推進